

としまち研掲示板

△▼△としまち研 各部会の次回開催予定△▼△

共同建替え部会	4月 11日(水)
コーポラティブ住宅部会	4月 23日(月)
団地・マンション再生部会	4月 10日(火)
福祉部会	4月 3日(火)
総務部会	
広報部会	

としまち研会員の方であれば誰でも部会に参加できますので、是非ご参加ください。

☆進行中のプロジェクトニュース☆

・こはす

4/15(日)に管理組合設立総会&入居パーティを開催します。

・奥澤コーポラティブハウス

引き続き参加者(入居希望者)の募集を行っています。どなたかお知り合いの方がいらっしゃいましたらご紹介ください。

・九段南コーポラティブハウスⅡ

前ページ参照。

・東日本大震災復興支援委員会

当初の予定より遅くなりましたが、いよいよ東松島市での防災集団移転等に関する被災者の個別相談業務が始まります。

塩釜のマンションを拠点に東松島市まで車で通います。一日も早く被災者の皆さんが安心して暮らせる住まいができることを祈りつつ…。

と一緒に活動して下さる方を募集しています。

・としまち研囲碁クラブ

としまち研では、会員の有志をつのり、趣味的活動として不定期開催の囲碁クラブを結成しました。最近では、ご近所のコーポラティブハウスにお住まいの小学生たちも参加し、楽しく活動しています。

としまち研会員に限らず、ご近所にお住まいの老若男女、ご興味のある方は事務局までお問い合わせください。



子どもたちも真剣です

はじめまして

このたび東松島市の復興支援事業にあたり、本塩釜に常駐することになりました佐藤しおりと申します。好きなものは本と映画と音楽です。大学では戦後の風景が残る街々をフィールドワークしていました。どうぞよろしくお祈りします。



(としまち研事務局 佐藤しおり)

まちづくりのご相談は事務局へ

○借入金があるが何か建替えの方法はあるか。
○お隣りも建替えを考えているようだが共同建替えは自分たちでは調整できない。
というような難しいご相談も検討します。お気軽にご相談ください。

編集後記

寒い、寒いと思っていましたが、いつの間にか春ですね。花粉症の方は、いくら去年よりは量が少ないとはいえ、天気予報の花粉情報には敏感になられているのではないのでしょうか。

東日本大震災から早一年。災害に対する意識は薄れていませんか。としまち研の事務所内でも、ことあるごとに防災対策の話題は出ますが、実際に備えは…と言われると準備がかなり不十分です。いつ起こるかわからない大災害に備えて、日頃の準備は大切です。(事務局 飛澤)

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町33 COMS HOUSE 2階
tel 03-5207-6277 fax 03-5294-7326
E-mail info@tmk-web.com ホームページ http://www.tmk-web.com/
皆さまからのご意見、ご感想をお待ちしております。

としまち研現在の会員数
正会員55人 賛助会員35人
編集発行人 比護彰彦
事務局担当 飛澤玲奈



としまち研会報 第56号

おいらのまち

2012.3

発行 NPO都市住宅とまちづくり研究会 理事会

第200回目を迎える「一木会」～多くの方に支えられて～

一木会は、肩肘張らない勉強会・交流会です。平成7年9月7日の第一木曜日にスタートしました。16年8ヶ月、毎月開催し、回を重ねて平成24年4月5日が第200回になります。

あれもこれも思い出しますが、以下の4点に整理して一木会を振り返り、今後の糧にしたいと思います。

1. テーマはいろいろです。
テーマは限定しておらず、好奇心のおもむくままに、面白い、ためになる、役に立つ…お話をしてくださる方さえいれば、とお願いしてきました。
2. としまち研設立の礎づくりの役割を果たしました。
平成9年2月に設立したまちづくりグループ『みらい』都心居住研究会の中心メンバー約15名は一木会参加者です。その活動が発展してとしまち研が設立されました。
3. テーマによっては公開勉強会にしました。
公開勉強会は、私どもの事務所の会議室ではなく100名以上入る会場を借りて実施します。としまち研10周年のときの一木会は300名以上が参加してくださいました。
4. 基本は1分間スピーチのある全員参加型の勉強会です。
勉強会は講師のお話を聞いて、質疑応答があって終了というケースが一般的ですが、一木会では、おにぎり・サンドイッチの軽食とビールで交流会を行い、参加者全員に1分間スピーチをしてもらいます。これで全員参加型の勉強会になります。
1分間スピーチは、コーポラティブハウスの建設組合や管理組合の懇親会、町内会の懇親会などでも、交流の手法として活用されてきています。
200回の次は300回です。これから8年4ヶ月、「継続は力なり」を信じて、多くの方々との交流の場を維持していきたいものです。(としまち研理事長 杉山昇)



162回一木会「古武術式介護術」皆さんで実践中

おいらのひとりごと

『おいらのひとりごと』はとしまち研会員による、リレー形式のエッセイです。

『駅伝伴走』 としまち研 森田寛

正月2日と3日、箱根駅伝で選手応援のため往復伴走し始めて5年目になる。往路ゴール後、同窓のよしみでTV中継解説の瀬古さん、渡邊監督を交え、数名の仲間と芦ノ湖畔の宿で新年の乾杯をするのが恒例になった。レースの間は小用も足せない中継車や監督車で、ひたすら選手を見守り、往復12時間に及ぶ「缶詰レース」に挑む師弟のひと時の中締めでもある。

朝6時、厳寒の大手町で選手激励後、8時の号砲で出発、各区で疾走する選手に付かず離れず声援。区間平均20kmでは何が起こるか分からない。選手たちをどう応援するか、自問しながら愚人は選手を追う。

1月末から3日間ほど宮城県の被災地、気仙沼、石巻を廻った。視界には映像報道で記憶する光景が続く。現場にいる間、希薄な空気を呼吸しているような胸苦しさ。しかし、その中で垣間見た、流されずに残った酒の仕込み樽には「もろみ」が馥郁とした香りを放ち、再開した俄か作りの魚市場や、立ち並ぶ屋台小屋では、確かな生活の匂いが立ち込める。

次に繋ごうと駅伝レースにも似た毎日経過す被災地の人々に、愚人はどう伴走するのか。やがて来る春に備え、被災地の多数の同窓を頼り、模索の再訪問を思案している。

※次号の「ひとりごと」は佐藤しおりさんです。お楽しみに。

一木会ご報告 (原則、毎月第一木曜日に COMS HOUSE で行う勉強会・交流会です)

★第198回一木会 (2012. 2. 2)

福島第二原発にいたときに東日本大震災に遭遇し、故郷を後にせざるを得ず、横浜市に避難している大塚憲さんのお話でした。

福島県双葉町の元町議で、原発問題には極めて具体的にかかわってこられました。重いテーマでしたが、「話しをして気持ちが楽になった」とも言っておられました。また、地元でのブルーベリー栽培についての話は、参加者のみなさんがとても関心を示し、懇親会で盛り上がりました。



★第199回一木会 (2012. 3. 1)

(株)象地域設計の社長から相談役になった三浦史郎さんの「建築とまちづくりに関する45年」というテーマで、三浦さんの半生をじっくりとお聞きしました。

家づくりや共同建替えなどの取り組みの姿勢 etc.三浦さんのきっちりとしたお人柄が滲み出る感動的なお話でした。まだ「やり残しておいたこと」がたくさんあるとのこと、これまでどおりお付き合いいただけるようで安心しました。



今後の一木会予定

★4月 (4月5日)【第200回一木会】★

(有)アーバンセクション代表取締役の二瓶正史さん 『住宅地設計とまちづくり』

★5月 (5月10日)【第201回一木会】★ ※第2木曜日の開催です

北海道大学院工学研究院の森傑教授 『気仙沼市小泉地区における集団移転計画 (仮題)』

～50名定員の予約制となります。お申し込みはとしまち研へ～

「こはす」が引渡しを迎えました

平成21年10月下旬から始まった『コーポラティブハウス神田東松下町パート3』計画も、途中、去年3月11日に起こった東日本大震災の影響を受け、工期の延長を余儀なくされましたが、平成24年2月4日(土)、無事に引渡しの日を迎えることができました。



現地での確認

これもひとえに、この計画に携わったすべての方々のおかげです。ありがたいことです。私は、建築の設計を生業としておりますので、設計から工事の流れなどは把握しているつもりです。

日常の設計業務は淡々と行っていたのですが、こと『こはす』に関する事柄は何故か遅々として進まない気がして、時間の流れが二つ存在する様な奇妙な感覚を味わっていました。

ただし、引越しをしたら、すっかりもとにもどってしまいましたが…。

建設組合の理事長から管理組合の理事長へと肩書きが変わりましたが、これからが本当にコーポラティブハウス『こはす』での生活の始まりです。

組合員の皆さんとともに和やかに楽しく過ごしてゆきたいと思っております。

(こはす管理組合理事長 江藤泉)



※これで東松下町内のコーポラティブハウスは3棟になりました。



引渡し書類の確認



こはす外観

COMS HOUSE (コムズハウス) 建物診断調査と長期修繕計画の見直し

としまち研実績第1号「COMS HOUSE」が今年5月で築10年を迎えます。建設時に長期修繕計画(案)が作成されていますが、この10年の経過に合わせて見直しを行うとともに、昨年3月の東日本大震災による建物への影響も懸念されることから、管理組合より建物診断業務を受託し、昨年12月に目視およびパールハンマー等による調査を実施しました。

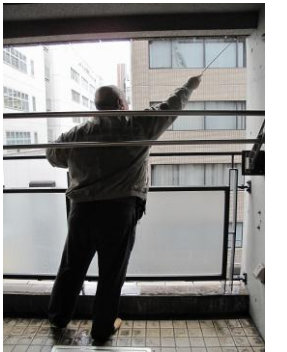


専用の計測器で外壁タイルの引張強度(付着力)試験

その結果、「全体としては経年並みの劣化が進行しており、大規模修繕は2~3年後で大丈夫」という見解が得られました。1月28日(土)に開催された報告会で発表すると、居住者の皆さんも安堵の表情でした。

この診断結果をもとに、3月からは管理組合の理事会主催で長期修繕計画および修繕積立金の見直しを行う勉強会がスタートし、としまち研も引き続きお手伝いしています。

としまち研では、がんばって活動する管理組合を応援することを目的として、「団地・マンション再生相談室」を設置しています。管理の改善、大規模修繕や建替えなどに関してお悩みのことがありましたら、ぜひご相談ください。(としまち研事務局 関真弓)



外壁が浮いていないかパールハンマーで打診

奥澤コーポラティブハウス 上棟お祝い会

3月24日(土)、(仮称)奥澤コーポラティブハウスの上棟お祝い会が組合員、建築関係者多数の出席で行われました。

宴だけなわの中、恒例の一分間スピーチが始まり、多くの組合員から工事関係者にお礼と工事の安全を願う言葉が聞かれました。それは、お祝い会の前に行われた総会の中で、施工会社：菊池建設の現場責任者による工事の遅れと、現在までの経緯、そして、今後の建築工程の説明が写真を交えて行われたからだと思います。



お祝いのお酒がたくさん

私も、普段ビルを建てているのを街で見ると、鉄骨を組み立て、次に壁をパタパタ貼っていて、あっという間に建ってしまうので、責任者の説明を聞き、一つ一つの工程ごとに、資材のチェックを工場で行い、現場施工後に行う作業を基礎、地下、1階...と順々に担当者が立会いのもとチェックをしてきたことを知りました。

「こんなに建物を建てるのは、大変な作業があるのだ。でもこれだけ色々なことを行って完成した建物なら安心して住むことができる。」と確信しました。

今後の工程も人員を増やして、今年の12月15日に引き渡せるとのこと、組合員全員が安心と期待で胸膨らんだことと思います。今後の工事の無事と素晴らしい建物の完成を待ち望みます。(奥澤コーポラティブハウス建設組合副理事長 永井隆)



参加者は総勢70名強でした

(仮称) 九段南コーポラティブハウスⅡの参加者募集中です

2月25日(土)より、(仮称)九段南コーポラティブハウスⅡの参加者募集活動をスタートしました。

前号の「おいらのまち」でもご案内しました通り、千代田区九段南2丁目で2棟目のプロジェクトになります。

参加者募集説明会は計4回開催し、3月14日(水)から申し込みを受け付けています。現在、総戸数22戸、募集戸数17戸のうち、10戸の参加者が決定しましたが、引き続き7戸の募集をしています。予定では、5月末に建設組合を設立できるように募集活動を頑張っています。

緑豊かな都心にお住まいをお探しの方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。

(としまち研事務局 飛澤玲奈)

